



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 イートアンド株式会社

コード番号 2882 URL <http://www.eat-and.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 文野 直樹

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長

(氏名) 植月 剛

TEL 03-6402-3961

四半期報告書提出予定日 平成28年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	16,898	10.2	438	190.0	438	150.4	225	319.5
27年3月期第3四半期	15,331	2.4	151	△77.2	175	△73.8	53	△86.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	51.13	50.65
27年3月期第3四半期	12.26	12.10

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	12,393		4,662	37.6	1,052.83			
27年3月期	10,569		4,396	41.5	1,001.80			

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 4,660百万円 27年3月期 4,389百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
28年3月期	—	7.50	—		
28年3月期(予想)				7.50	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,880	5.2	469	65.5	475	51.6	200	163.3	45.26

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	4,427,345 株	27年3月期	4,382,345 株
28年3月期3Q	358 株	27年3月期	331 株
28年3月期3Q	4,406,054 株	27年3月期3Q	4,379,939 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、中国の成長鈍化や欧州の債務問題・難民問題等の不安要素はありつつも、輸出が好調であったほか、原油安による経費減効果などを受けて堅調に推移しました。

一般の消費生活におきましては、価値と価格の二極化が進む中、所得増加の動きが鈍いのに対し、食品を含む日用品の価格が上昇しつつあることから、時折の「プチ贅沢」以外の支出を抑える傾向が強まっております。

食品業界におきましては、天候不順や円安による原料高で価格を上げざるを得ない一方、美味しさはもとより食品の機能性や、調理簡便性など価値の向上を訴求することで、消費者の納得感を得るべく努めております。

このような状況下、当社におきましては、食料品販売事業の主力商品である内製冷凍食品の拡販を推し進めつつ、外食業態や商品の開発サイクルを加速し、新たな価値の創造・提供に努めました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の当社の業績は、売上高が168億98百万円（前年同四半期比10.2%増）と増収であった一方、家賃や水道光熱費などの直営店舗運営経費の増加、内製冷凍食品の拡販を期した量販店店頭での販促強化に伴う広告費や販促費などの投入により、販売費及び一般管理費56億74百万円（同8.8%増）を計上し、営業利益が4億38百万円（同190.0%増）、経常利益が4億38百万円（同150.4%増）、四半期純利益は2億25百万円（同319.5%増）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

①外食事業

外食事業におきましては、主力の大衆中華業態で肉を前面に押し出したメニューを相次いで投入しました。また、汁なしのまぜそばやコンビニエンスストアとの複合店舗などの新業態店舗を直営出店したほか、直営店で業績好調なベーカリーカフェ業態の加盟店を出店するなど、新たな取り組みを進めました。

なお、当第3四半期累計期間におきましては、加盟店20店舗（うち海外8店舗）、直営店12店舗の計32店舗を出店した一方、加盟店20店舗（うち海外5店舗）、直営店3店舗の計23店舗を閉店した結果、純増は9店舗となり、当第3四半期末店舗数は、加盟店401店舗（うち海外27店舗）、直営店47店舗の計448店舗（うち海外27店舗）となっております。

また、運営形態変更に伴い1店舗を直営店から加盟店、1店舗を加盟店から直営店へと変更しております。

以上の結果、外食事業における当第3四半期累計期間の売上高は、88億54百万円（前年同四半期比7.7%増）となりました。

なお、外食事業の店舗数の内訳は以下のとおりであります。

業態名	前事業年度末 (平成27年3月31日)			当事業年度末 (平成27年12月31日)		
	直営店	加盟店	計	直営店	加盟店	計
大阪王将	23	341	364	24	339	363
ラーメン	12	31	43	15	29	44
よってこや	3	17	20	3	16	19
太陽のトマト麺	7	14	21	9	13	22
その他ラーメン	2	0	2	3	0	3
その他業態	3	5	8	8	6	14
コートロザリアン	1	3	4	1	4	5
シノワーズ厨花	1	1	2	1	1	2
その他自社業態	1	1	2	6	1	7
海外	0	24	24	0	27	27
合計	38	401	439	47	401	448

②食料品販売事業

食料品販売事業におきましては、量販店店頭での販促強化を含む営業提案を積極的に展開し、同事業の主力商品である内製冷凍餃子の販売量増を図りました。これにより、新規得意先数と既存得意先への納品量とともに増やすことができ、当社工場の稼働率、ひいては全社利益率を向上させることもできました。

以上の結果、食料品販売事業における当第3四半期累計期間の売上高は、80億44百万円（前年同四半期比13.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

(資産の部)

当第3四半期会計期間末の総資産の残高は、前事業年度末より18億24百万円（前事業年度比17.3%）増加し、123億93百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より14億54百万円（前事業年度比27.9%）増加し、66億62百万円となりました。主な要因は、売掛金、現金及び預金の増加によるものであります。

固定資産は、前事業年度末より3億69百万円（前事業年度比6.9%）増加し、57億31百万円となりました。主な要因は、直営店新規出店および関東工場の排水処理施設増設に伴う有形固定資産の取得によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期会計期間末の負債の残高は、前事業年度末より15億57百万円（前事業年度比25.2%）増加し、77億31百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末より15億26百万円（前事業年度比30.1%）増加し、65億94百万円となりました。主な要因は、買掛金、未払金、売上割戻引当金の増加によるものであります。

固定負債は、前事業年度末より30百万円（前事業年度比2.8%）増加し、11億37百万円となりました。主な要因は、役員退職慰労引当金の増加によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期会計期間末の純資産の残高は、前事業年度末より2億66百万円（前事業年度比6.1%）増加し、46億62百万円となりました。主な要因は、第三者割当増資に伴う資本金および資本準備金の増加、四半期純利益の計上によるものであります。

この結果、自己資本比率は37.6%（前事業年度末41.5%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月8日付「平成27年3月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」で公表しました業績予想に変更はございません。なお、本資料発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、今後様々な要因により異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	689,020	886,570
売掛金	3,559,917	4,776,439
商品及び製品	421,371	587,158
原材料及び貯蔵品	185,144	161,298
前払費用	197,367	140,145
繰延税金資産	44,524	44,524
その他	110,847	66,587
流動資産合計	5,208,193	6,662,723
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,111,640	2,334,739
土地	1,089,772	1,089,772
その他（純額）	863,786	859,035
有形固定資産合計	4,065,200	4,283,547
無形固定資産	158,549	194,452
投資その他の資産		
投資有価証券	57,718	83,462
差入保証金	549,238	627,661
繰延税金資産	84,433	76,255
その他	463,722	483,260
貸倒引当金	△17,534	△17,534
投資その他の資産合計	1,137,578	1,253,105
固定資産合計	5,361,329	5,731,104
資産合計	10,569,522	12,393,828

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,934,181	2,801,984
短期借入金	890,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	86,873	—
未払金	1,074,060	1,666,833
未払費用	248,520	293,479
未払法人税等	60,300	179,168
賞与引当金	95,181	81,181
役員賞与引当金	950	14,895
売上割戻引当金	433,753	609,807
その他	243,213	146,649
流動負債合計	5,067,033	6,594,000
固定負債		
退職給付引当金	90,637	90,334
役員退職慰労引当金	322,020	337,840
その他	693,500	708,947
固定負債合計	1,106,158	1,137,121
負債合計	6,173,191	7,731,121
純資産の部		
株主資本		
資本金	908,403	955,698
資本剰余金	840,839	888,134
利益剰余金	2,629,132	2,788,354
自己株式	△386	△442
株主資本合計	4,377,988	4,631,744
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,896	29,099
評価・換算差額等合計	11,896	29,099
新株予約権	6,444	1,862
純資産合計	4,396,330	4,662,706
負債純資産合計	10,569,522	12,393,828

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	15,331,913	16,898,548
売上原価	9,962,740	10,785,169
売上総利益	5,369,173	6,113,379
販売費及び一般管理費	5,217,810	5,674,471
営業利益	151,362	438,908
営業外収益		
受取利息	1,140	554
受取配当金	354	483
受取手数料	4,154	4,461
受取保険金	25,274	—
補助金収入	919	1,516
その他	1,154	177
営業外収益合計	32,998	7,193
営業外費用		
支払利息	8,284	4,203
株式交付費	—	856
為替差損	—	1,989
その他	972	582
営業外費用合計	9,257	7,631
経常利益	175,103	438,470
特別利益		
新株予約権戻入益	—	4,582
特別利益合計	—	4,582
特別損失		
固定資産除却損	22,212	2,197
減損損失	—	8,191
店舗閉鎖損失	4,974	3,824
その他	—	93
特別損失合計	27,187	14,307
税引前四半期純利益	147,916	428,745
法人税等	94,206	203,456
四半期純利益	53,709	225,289

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年8月7日付で、麒麟麦酒株式会社から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金が47,295千円、資本準備金が47,295千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が955,698千円、資本準備金が888,134千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	外食事業	食料品 販売事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	8,222,411	7,109,501	15,331,913	15,331,913	—	15,331,913
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,222,411	7,109,501	15,331,913	15,331,913	—	15,331,913
セグメント利益	157,811	100,152	257,964	257,964	△106,601	151,362

(注) 1. 当第3四半期累計期間におけるセグメント利益の調整額△106,601千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	外食事業	食料品 販売事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	8,854,164	8,044,383	16,898,548	16,898,548	—	16,898,548
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,854,164	8,044,383	16,898,548	16,898,548	—	16,898,548
セグメント利益	371,311	228,178	599,490	599,490	△160,581	438,908

(注) 1. 当第3四半期累計期間におけるセグメント利益の調整額△160,581千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントの店舗設備において減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は当第3四半期累計期間において8,191千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。